

音読練習に自発的・意欲的に取り組ませる工夫

HYOGO スクールエバンジェリスト 兵庫県立姫路商業高等学校 瓜生 万美子

<p>本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業や家庭での音読練習に明確な目的意識を持ち、より意欲的に取り組むことができる。 ・自分の英語の音読レベルを正確に把握することができ、次の音読課題に向けて自発的に練習を進めることができる。 	<p>校種・学年</p> <p>高等学校・1年</p>
	<p>教科・領域</p> <p>英語</p>
	<p>アプリ・ソフト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom ・Google ドライブ ・録音アプリ
	<p>備考</p>

○本時の展開

	○学習活動（◆指導上の留意点）
導入	<p>○英語コミュニケーション I の授業において、各パートを学習後、音読練習に取り組む。（一人またはペアワーク）</p> <p>◆読み方の曖昧な単語は、インターネット上で調べてもよいことを伝える。</p>
展開	<p>○指定のパートの本文全文を各自で音読し、録音アプリケーションを用いて録音する。</p> <p>○録音したデータを Google ドライブに保存し、Google Classroom に提出する。</p> <p>◆音読課題に取り組む際の留意点について Google Classroom に評価ルーブリックを共有しておき、音読の際に意識させる。</p>
まとめ	<p>○音読の採点結果を返却する。</p> <p>◆生徒に提示しているルーブリックに沿って ALT が音読課題を採点し、Google Classroom を通じて課題を返却する。生徒はコメントを参照し、自分の課題を正確に把握させ、復習させる。</p> <p>◆新しい音読課題に取り組む際に、前回までの課題結果を再度振り返るように指導する。</p>

育成できる情報活用能力

◎インターネットを用いて効果的に情報を検索することができる。

育成できる情報活用能力

◎自作のデータの保存方法やクラウドを通じての課題提出の方法を学び、実践・活用することができる。

育成できる情報活用能力

◎提出した音読課題をクラウドに蓄積させることで、自分の学習成果をすぐに参照できるオンラインポートフォリオとして活用することができる。

<情報活用能力の育成とその効果>

・オンライン上のルーブリックを参考に音読課題に適切に取り組み、復習の際にもフィードバック等を参考にしながら課題の振り返りを行うことによって、オンラインポートフォリオを上手に活用する能力が育成できる。

生徒の感想

・復習の際、自分の提出した音読課題を聴きながら、ルーブリックに沿った課題の採点結果を確認できるので、自分に足りない部分を明確に把握しやすい。